

2015-8-5

会 議 錄

会議主管部署 【館町団地】南バイパス道路対策委員会

件名 (南道路)第16回協議会

作成 南道路対策委員会(以下「対策(委)」) 宮崎(7/30)、承認 対策(委)(7/31)

官側確認 相国道・調査課:(微修正: 8/3)、(市・都市計画部)交通企画課:(8/5)

開催日時 7月29日(水) 15:00~17:00

開催場所 (館町団地)自治会会館 ホール

(資料) ①第⑯回協議会「質問要望事項」<4/30 団地提出>

②第⑯回協議会「事前調整会議」議事録

【議 事】

出席者の一部紹介の後、議事に入る。…司会・進行: 唐沢委員

(事前に提出した「質問要望事項」に基づき、官側から下記主要事項の回答を得た。)

■1. 平成27年度の事業計画

(3工区)予算規模は30億円で、館ヶ丘地区の改良工事(昨年度からの継続)と「館第一トンネル」の着手(設計・工事込の発注形式で現在準備中であり、今年度末の契約を見込んでいる。)…●工事開始は早くも来年秋頃を予定する。

●入札・契約状況は、関東整備局のHPで公表される。

用地買収の進捗率は、昨年度末時点で90%、工期は3~4年を要す(詳細は公告で)。

■2. 「工事説明会」・「工事協定」

●「工事説明会」(時期・実施方法) ⇒上記会議資料②の内容を掲載

関係する地元において実施する。範囲・やり方については、今後調整していく。

また、時期・方法については、(受注する業者)契約内容とスケジュールが決定しないと明らかに成らないが、一般的には、工事開始3ヶ月前位の開催であり、直前と云う事は無い。

●「工事協定」

①事業者として結んだ事は無い。

業者との契約に際し、共通仕様書の中で“地元との良好な関係を基に、必要な折衝・調整・協議等を行うよう規定するので、要すれば建設業者と地元の間で「工事協定」を結ぶ事に成ろう。

②「工事説明会」の前に話を詰める必要性はあるので、業者が決定次第連絡する。

■3. 「現地説明会」

- ★ 館町団地は、(酷暑の時期を避け)9/下旬～10/上旬に開催する。 殿入地区は別開催の予定。 現地で使用する説明用パネル等を用意する。
※スケジュール、資料等は後日送付するので、団地内で徹底して欲しい。

■4. (付帯設備)「詳細設計反映に向けた(団地内)環境負荷問題」

- 1).**交通量:**アセス書の資料編 P 9 の通り、(上下線合わせて)本線部は北野・打越に於いて 46,900 台、団地直近では 28,000 台、街路部が 4,900 台である。

2).「付帯設備」詳細設計前の環境予測調査の実施/事後確認

- ①団地要望箇所の環境負荷予測調査を行い、取得データを提示し協議する。

尚、騒音予測には L_{50} を加える。…(団地要望)

団地要望箇所⇒団地入口(市道付替道路の接続点…(館町 1819-3 島田宅付近))
計画道路から当団地に最も近く(約 50m)、且、居住環境に隣接する「館第1トンネル出入口」の直近の斜面(0～20mの高さ)に沿ってポイントを設ける。

- ②詳細設計は環境負荷予測調査の結果を基に、最新の知見を用いて実施する。

- ③事後確認(検証)*は、アセスポイント外なので出来ない。

【市の見解*】

市の中では、別のセクションの分担なので断言は出来ないが、国の事業としての「事後確認(検証)」が出来ないのであれば、「一般的な環境負荷苦情」として住民からの要望を受け、地方自治体(市)が対応せざるを得ないと考える。

3).(大気汚染)予測に用いた拡散式の適用について

団地から疑問視された「予測に用いた拡散式の適用」について、(紹介された)下記論文を調査してみる。

▼【研究論文】「山間地における大気拡散モデルによる現況再現性の比較検証」

武藏工業大学環境情報学部教授 青山

(株)環境総合研究所 取締役調査部長 鷹取

-以下余白-